（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	イルカ児童園（池袋教室）			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月　5日	～	令和8年　2月　15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	21	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	令和8年１月　5日	～	令和8年　１月　5日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　2月　２８日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育型の療育施設の為、1日の流れが決まっており、ルーティーンで子どもたちも慣れている。	身支度方法等が構造化されており、視覚的にわかりやすくなっている。また、療育室には玩具が充実しており、自由遊び時に、子ども同士の関わりが見られる等、保育型施設ならではの療育が展開されている。	玩具の場所がわからない子どもに対しても、絵カードや写真等を使用して、みんなが使いやすくきれいな状態を保てるようにしていきたい。
2	毎回、FBの時間を設けており、丁寧にその日の様子(成長した事・課題等)をお伝えしたり、家庭での様子を保護者と共有し、次の療育に活かしている。	利用者の悩みに寄り添い、適切な声掛けを行っている。また、悩みごとの中で支援の方向性を変える必要がある場合は、児発管につなぎ、面談を実施する等工夫している。	保護者の悩みや児童の困り事に対して、療育的な視点から回答できるように、日々研修や振り返りを行う等努力している。しかし、その時間が取れない事もある為、管理者や指導員同士で相談しやすい環境づくりを引き続き作っていきたい。
3	専門職（言語聴覚士・作業療法士・公認心理師等）がいる事や、研修内容も専門的知識のものが受けられる職員が増えている事。	外部研修に関しては、積極的に行けるように調整をしており、ミーティング時に研修に関する発表を行っている。また、各専門職からの園内研修も実施しており、療育プログラムに関する知識の標準化や療育支援に活かしたりする機会にしている。	療育的な知識・研修会に関しては、職員だけではなく保護者も一緒に学べる機会を設けていきたいと考えている。まずはお便り等で、当施設で行っている療育プログラムについて触れた文章を作成したり、少しずつ進めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育の経験年数が１，２年の職員が多い為、他の事業所と比較した際に経験年数が少ない。	初めて務める療育施設が、当施設である職員が多く、判断材料がない事、また経験が浅い事から個別療育プログラムの組み立てがわかる職員が少ない事があげられる。その為、専門職頼りになってしまう事もある。	経験年数が同じくらいな為、わからない事を共有しながら進めたり、職員間でその日のうちに話し合いをすることができている。また、本を買って勉強をしている職員や自主的に研修を受けている職員もいる等、日々の努力を今後も継続していきたい。
2	保護者会や父母会などが実施出来ていない。	職員体制一新、施設移転に伴い例年以上に催し物が行えていなかった。	施設移転終了。ただ、来年度は療育形態の変更などもあり、今年度同様、以前のような提供は難しい事が予想される。療育とのバランスを考え、利用者に満足してもらえるよう提供形態を考えていきたい。
3	地域交流が出来ていない。	施設外での活動や、近隣との関わり等を行うには、安全面からどうしても人手が必要となるが、確保に至らず。	同法人の保育園と同じ場所にて療育を行なっているので、今後はそこと連携していく事を考えている。